

日本銀行  
帯広事務所長

田原謙一郎



昨夏に赴任してからもう少しで四季をひと回りする十勝の生活の中で、折に触れ三つのことを感じている。

一つめは、十勝で出合う色の鮮やかさ。初めは飛行機の窓から見た緑・茶色・ベージュが織り成す広大な畑だった。車を少し走らせれば、草を食(は)む

白黒や真っ黒の牛たちが土地の景観と一つになって見えた。秋が深まり、紅葉の赤・オレンジ・黄色がこんなにも力強いのかと目に焼き付けられた。年が明けて雪が降ると、突き抜けるような青い空と真っ白な雪原のコントラストが何より印象的だった。

二つめは、温泉・サウナが身

## 十勝の彩り

近にある暮らし。十勝に生まれ育った方には当たり前のことかもしれない。独特の褐色をした、世界でも希少な植物性の温泉

は、色合いや感触など一つ一つの施設で個性が楽しめる。車を1〜2時間走らせれば秘湯感たっぷりの温泉が待っている(東京在住の頃は、秘湯系にたどり着くには1日かかり)。無色透

明、白濁色、やや黄みがあったり色合い等々、泉質同様に多彩だ。近所や各地の温泉施設からの帰り道は、いつも疲労回復効果と深い幸福感に包まれる。当地で入り方を教わったサウナでは、水風呂が地下水かけ流しという施設も少なくない。ちまたのサウナ愛好家には垂せんものだろう。観光面に加えて生活環境面でも大きな魅力の十勝の温泉・サウナ。これまた(自分が確認した限り)意外と知られておらず、健康志向が高まる中でアピールポイントではないかと感じる。

三つめは、十勝の方々の常に先を見据えながら働く姿。農家さんにお邪魔した際には、畑の水はけ、人手の確保やロボット導入、牛のふん尿対策、資材の価格変動への対応など、先代から引き継ぎ今日に至るまでの取

り組みや課題をうかがった。その時々々に直面する状況に対し、今できるベストのことは何か考え、関係者を巻き込みながら進めていく姿は、地元企業の方々にも共通している。

十勝を含む道東地域の企業短期経済観測調査(2021年3月)では、景況感は全体として悪化しながらも20年度に続いて21年度も設備投資を増やす計画となっている。引き続き感染症の影響に注意が必要なもの、今後の競争力強化を見据えた動きが一部にみられている。一方、宿泊・飲食など対面型サービスでは厳しい状況が続いている。ワクチン接種が徐々に進む見込みの中で、感染が抑えられた状況で観光地への人の流れが広がり、夜になれば街に彩りと活気が戻ってくることを切に願う。

## かちまい 論壇